

平成 26 年度特定非営利活動に係る事業計画書

特定非営利活動法人はぁもにぃ

1 事業実施の方針

全体

発達及び知的障害の特性を抱えた当事者やその家族が、誤解や偏見を受けることなく、ありのままを認められ、受け入れられ、理解される環境（人・場所）を地域コミュニティの中に確立・構築していくために必要な支援（サービスの提供）及び普及・啓発活動を引き続き行っていく。

Ⅰ 障害福祉サービス事業

①放課後等デイサービス事業

利用児童の個々の特性を理解し、成人した後も安定した生活を送れるよう、「生活の質を高めるためのコミュニケーションスキルやソーシャルスキルアップ、余暇活動の支援（趣味の獲得）及び社会活動を通して地域コミュニティへの参加」を主な課題とし、今年度から一日辺り指導員数は減らさず、20 名から 10 名に定員変更、預かり終了時間の 30 分延長、土曜日デイサービス活動の充実（体操教室に加え、グループ活動）利用児童一人ひとりとさらにしっかり向き合える体制を整え、サービス提供内容のさらなる充実に努める。

保護者・学校・保健センター・医療機関等との連携を深め、利用児童に対してのサポート体制を完成させていくことに努めるとともに、他の市民活動団体や自治会等とのつながりを深め、地域コミュニティにおける居場所作りを進めていく。

②障害者就労継続支援事業（A 型）

A 型雇用有は時給 800 円、雇用無は工賃 50,000 円の支払いを目標とする。

日中活動（働く）場として、充実した時間が過ごせるよう利用者個々の特性に合わせたサービスプラン（仕事等）を作成し、サービス提供に努める。

A 型雇用有は Community Café b（ふらっと）において、厨房補助・接客補助・事務補助（PC 作業含む）を主な作業トレーニングとして行う。A 型雇用無は就労支援プロジェクト「お菓子工房 はぁもにぃ」主力商品の製造（梱包ラッピング含む）に取り組むが、つながる街づくりプロジェクト「Community Café b（ふらっと）」への搬送、通信販売の受付発送、バザーやイベント等でのブース販売も作業トレーニングとして行う。

今年度は新しく入る A 型雇用無利用者達を主な対象として、千葉県袖ヶ浦市にある坊ノ内養蜂園との共同事業「はぁもにぃ養蜂部&はぁもにぃ農業部」において養蜂業及び畑作業等も、本人の特性・希望に応じて作業トレーニングとして行う。

デイサービスでの課題でもあった「豊かに人生を過ごせるようにするための趣味の獲得」は、当事業においても引き続き課題とし、作業時間・昼食等休憩時間以外にフリータイムを設け、軽運動や創作活動等に取り組ませていきたい。

II つながる街づくりプロジェクト「地域の方達と障碍のある方達との架け橋になりたい」 Community Café b（ふらっと）

「場を通してはあもにいの思いを伝える」「働く障碍者の工賃アップのビジネスモデルを作る」を目標に、地域とはあもにいをつなげるタッチポイントして、顧客ニーズに合わせたサービスの提供に努める。

1階カフェでは地域の生産者達と連携し、地元食材を中心にしたランチ提供を目指す。ワンディシェフ制度は水曜日を中心に継続していく。

一日にくる客数を把握できることは、働く利用者にとっても見通しがたち、ストレス度が減る為、予約を中心に客を確保できるよう、お菓子工房はあもにいショップコーナーへのテイクアウト客増を目指し、新聞折り込みチラシやダイレクトメールを定期的に出していく。

毎月の予定表作成とともに、チラシ作りや郵送手配などの新たな仕事の創出も図る。「カウンセリングカフェ」としての認識も広がり、ニーズも非常に増加してきたこともあり、今年度はさらにその機能を特化させていくこととする。

具体的にはNPO 法人再決断カウンセリングジャパン会員カウンセラーとの連携により、1階カフェでのカウンセラーによるお話し会（2：00PM~5:00PM）の実施、2階個別カウンセリングルームでのピアカウンセリング及び個別カウンセリングの実施（予約制）、2階セミナールームでのカウンセリング講座を今年継続して実施（通年）していくとともに、昼間だけでなく、夜間も開催し、今までbに立ち寄ることが出来なかった層にも、機会を提供していく。

定休日等を利用した1階2階を使つてのワンディショップの開催、地域イベントでの出張カウンセリングカフェの実施など、より地域の方達とのつながりを深められる取り組みを行っていく。

事務作業室を整備しなおし、A型利用者の専用事務作業スペースとし、落ち着いて作業に専念できる環境を作る。

III 就労支援プロジェクト「誰もが幸せを感じる HAPPY スイーツを提供したい」お菓子工房はあもにい

「商品を通してはあもにいの思いを伝える」「働く障碍者の工賃アップを実現させる」を目標に今年度も活動を続けていく。

坊ノ内養蜂園との共同事業「はあもにい養蜂部&はあもにい農業部」の蜂蜜等をつかった「地産地消スイーツ」及びお客様のご要望から生まれた「アレルギー対応スイーツ」を主力商品とする。

3時パティシエ河野孝志氏とのコラボレーション「～おいしくつながる優しい気持ち～はあもにいスイーツギフト会員」（年会費12000円）の今年度獲得目標会員数は100人とする。今年度ははあもにい養蜂部の「はあもにいはにいシロップ」もギフトセット内容に加え、商品力をUPするとともに、会員に対しての成果報告もしっかり行い、会員になる意味と意義をわかりやすく伝え、会員獲得増に努めていく。

工房のブランディングをはあもにい総合プロデューサー（株）ZNEM 三好和彦氏に依頼、パッケージやフライヤーを一新、b shop 販売、出張販売・イベント販売、SNS やWEBでの発信等を通し、商品の良さが認知されるようになり、25年度は順調に売り上げを伸ばすことが出来た。今年2月には、ちば食の逸品発掘2014においても「はにいシロップ『からずざんしょう』であじわうプリンセスぷりん」が銀賞を受賞、メディアにも多数取り上

げられるようになり、流れは出来てきたので、今年度も継続して上記の活動を続けていき、雇用有り3名から5名増に対し時給800円、雇用無し3名に対し日当2500円が実現できるよう、努めていく。

Ⅳ自分発見プロジェクト「はぁもにい養蜂部&農業部」

就労継続支援はぁもにい（就労継続支援事業A型）の新たな作業トレーニングの場として本年度より本格始動する。

本年度はデイサービスを卒業第1期生が養蜂部員となり、仕事に取り組むが、緑と土、そしてミツバチ達に囲まれた彼らにとってストレスの最も少ない環境下のなかで、学校を卒業したばかりの彼らが、社会人としての生活に慣れ、毎日の活動を通して、働く意義や喜びを感じられるよう、支援をしていく。

Ⅴ相談支援事業

1億総うつと呼ばれる現在、当事者や家族だけでなく、地域住民の方たちなど、悩みを抱え、話を聞いてくれる人や場を求める人は増える一方である。その受け皿として、制度をだけでは足りない支援を本年度もCommunity Café b（ふらっと）で行っていく。

Ⅵ普及・啓発活動

毎日の活動、SNSやWEBを通しての発信、普及・啓発イベント「はぁもにいフェスティバル」の開催、講演会の引受け等を通して、本年度もさらなる普及・啓発活動を行っていく。